

# あさお 慶一郎

けい いち ろう

活動レポート No.325

## 何度でもチャンスのある社会を

### 今月の提言 ウクライナ危機と我国の安全保障を巡る課題

#### 自民党が嫌いな人の考えを変えたロシアの侵略

ロシア軍によるウクライナ侵略は世界中の人に衝撃を与えました。同時に、ウクライナ国民とゼレンスキー大統領の対応に世界中の多くの方から応援の声が上がっています。小学校の先生をしていた知人から次の様に言われました。「自民党は嫌いだったけど、この状況を見たらやはり自民党を支持するしかない。国を守るということの大切さを、これほど子供たちに教えないといけないと痛感したことはない」

#### どこの国とも同盟関係にないウクライナ

別の機会に、「今の政治家は何をしているのだ。何で、プーチンを止められないのだ。国連は何をしている」とお叱りを受けました。ロシアのプーチン大統領の戦争を止められないことへの怒りの声は広がるばかり。ロシアが国連安保理の常任理事国で、拒否権を行使されると、国連による集団安全保障は機能しない。プーチンは、国連が機能せず、またウクライナがどこの国とも軍事同盟の関係にないことを見越して、侵略したのでしょう。

#### 日米安保を機能させるには

我国の場合は、米国と日米安全保障条約を締結しているので、相手に侵攻しようという気を起こさせない抑止力があります。日米安保条約は大きな抑止力です。一方、世界中の人がウクラ

イナに対する同情の念を強くするのは、ウクライナの人々が自分の国は自分で守るという姿勢を強く見せているからでもあります。いくら日米安保があったとしても、まずは自分の国は自分で守るという姿勢を日本が見せなければ、米国民が米軍による日本防衛の戦争に賛同するはずがありません。

#### 憲法解釈上許される打撃力の保持

自国を自分達で守ることを示す上で必要な装備は何か。これまで専守防衛で攻撃的能力を持たなかった自衛隊の装備に少し打撃力を加えることです。憲法上、相手の国が我国を攻撃することが分かっている場合に、その相手の基地を叩くことは憲法違反ではありません。この憲法解釈は、社民党も閣内にいた鳩山由紀夫政権においても引き継いでいました。憲法上は持つことが許されている装備を実際に持つことにより抑止力を高めていくことが、今ほど求められている時はありません。打撃力・攻撃力を米軍に依存する体系の我国の安全保障を、米軍と協力しつつ自前の攻撃力を持つことに変えることで、我国の抑止力を高められます。その意味で、「敵基地攻撃能力」を持つことが、我国の抑止力を高めることとなります。10年以上前からこのことを提唱していた私としては、是非とも内容のあるものとして実現したいと考えています。



浅尾 慶一郎

#### あさお慶一郎のプロフィール

昭和39年2月11日生まれ 妻と愛犬と共に暮らす。  
外交官だった父の赴任先、アメリカ、カナダで少年時代を過ごす。  
栄光学園高等学校を経て、東京大学法学部を卒業。日本興業銀行入行後、証券アナリストとして活躍。米スタンフォード大学経営大学院 (MBA) 修了。  
参議院議員 平成10年 初当選 [34歳] ~平成21年まで通算2期12年  
衆議院議員 平成21年 当選 [45歳] ~平成29年まで通算3期8年

浅尾慶一郎事務所 〒247-0056 鎌倉市大船1-23-11 松岡ビル5F  
TEL : 0467-47-5682 / FAX : 0467-47-5626 e-mail : info@asao.net

誰にでも何度でもチャンスのある社会を。  
あさおの思いはコチラから。

<https://www.asao.net>

[http://twitter.com/asao\\_keiichiro](http://twitter.com/asao_keiichiro)

<http://facebook.com/asao.keiichiro>

[あさおチャンネル](#) [あさお慶一郎 Youtube](#) [検索](#)



## 今月の対談 河野太郎代議士との対談

あさお慶一郎と30年来の友人関係でもある河野太郎代議士と参院選を前に対談いたしました。これまでのあさお慶一郎をよく知る人物のひとり、河野先生とウクライナ情勢やあさおの政治姿勢に至るまでお話ししました。

### 「何度でも挑戦できる社会を」

**浅尾** 夏の参院選で自民党から公認候補として再チャレンジの機会をいただきました。

**河野** このチャンスを活かすことで「だれにでも何度でも挑戦できる社会をつくる」という浅尾さんの長年の主張を実現する一歩となります。

**浅尾** 河野さんとの出会いは、議員になる前、お互い大学を卒業して社会人になりたての頃でした。それから二人とも国会議員となって北朝鮮への送金停止などの法案を一緒に取り組みました。

**河野** あの北朝鮮籍の入港禁止法案の成立は、現在の緊張した国際状況を考えて非常に有益だったと感じます。浅尾さんは2009年、当時の民主党でネクスト防衛大臣を務めていて政権交代があればそのまま新内閣の防衛大臣になることが決まっていたのに、民主党を離党した時には驚きました。



### 国際社会の課題に立ち向かう即戦力

**浅尾** 日本の安全保障は現実的なものでなければなりません。あの当時の鳩山総理は沖縄の基地問題で「最低でも県外」と公言していたので、民主党に残って防衛大臣に就任していたら最初に辞任する閣僚になっていたでしょう。

**河野** ウクライナ侵略が起きて、より現実的な安全保障戦略が必要とされています。日本がおかれている状況をしっかり理解し、国益を守るための議論ができる議員が欠かせません。こんな時だからこそ、浅尾さんのような閣僚も務まる即戦力が国会に必要です。

**浅尾** ウクライナ侵略は対岸の火事ではありません。力がある国が周辺の国々を蹂躪することが認められるような国際社会にははいけません。日本には何ができるのか？足りないのか？冷静に判断することが必要です。



### 国民の立場で判断する政治家として

**河野** 浅尾さんはもともと安全保障や、経済施策でも自民党的な考えを持っているので一緒にやれることになって良かった。みんなの党の解党時に余っていた政党交付金を返還しましたね。非常にクリーンな筋を通す行動でした。



**浅尾** 政党交付金の趣旨を考えれば国庫に返金するのは当たり前のことです。

**河野** 価値観の変化が著しい今、国民の理解を得ることがより大切だと思っています。政治家の都合による離合集散ではなく国民のみなさんに納得してもらえるような努力が必要です。

**浅尾** 政権交代直前に民主党を離党したり、政党交付金を返納したりと筋を通すあまり「浅尾は不器用だ」と言われたこともあります。しかしそれは国民目線に立った行動だと自負しています。



今回の挑戦は決して楽な道ではありませんが、国民の皆様にご納得していただく政治の実現のために頑張りますので、よろしくお願いいたします。

**河野** 浅尾さんは実力があがりながら、さまざまな挫折を経験してきました。それでも諦めずに挑戦し続けてきました。不屈の精神を持つ浅尾慶一郎さんのその姿を伝えていくことで「何度でも挑戦できる社会」を実現することの重要性を国民の皆さんに感じ取ってもらえるように頑張らしましょう。

\*対談の全文はホームページでご覧いただけます。

## 2022年あさお慶一郎をご支援ください

### 特別賛助会員募集・ポスター掲示

「あさお慶一郎君を応援する会」では浅尾慶一郎の政治活動を支援する一助として「特別賛助会員」(5,000円/年)\*の募集を行っております。ご入会された方には、大船在住の小中原研さんがデザインを手掛けた、今年の干支である寅(とら)の「オリジナルピンバッジ」をお送りさせていただきます。

\*後援会組織「あさお会」は無料、年会費はありません。



### お申し込み記入欄 (お申し込みFAX番号: 0467-47-5626)

お申込みをされる項目に✓をしてください			
<input type="checkbox"/> 特別賛助会員	お名前	生年月日	年 月 日
<input type="checkbox"/> ポスターの掲示希望	ご住所		
*自宅の壁・フェンス等に掲示可能な方はお知らせください	電話	携帯電話	
	E-mail		

各種入会・詳細に関しましては、「浅尾慶一郎事務所」ホームページ「<https://asao.net/>」又は TEL. 0467-47-5682 までご連絡ください。